

1. 学ぶ内容

・災害時に役立つ身近なもの ・その場にあるものを工夫して使うことの大切さ

2. ねらい

適切な防災グッズがその場になかった時、すぐにあきらめてしまうのではなく、身の回りにあるものを工夫して使って乗り切ることの大切さを理解する。

3. 授業の流れ

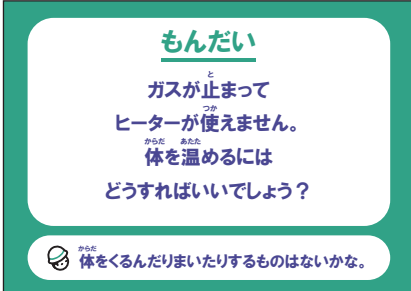
- (準備) ① もんだいシートを印刷しておく(掲示用1枚 ※先生が使う)
 ② アイテムカードを班の数印刷し、切り取り線の沿って切り取っておく(班ごとに配布)
 ③ そなえチェックシート「防災グッズ」を印刷しておく(全員に配布)

実施の流れ	内容	ポイント
導入 (3分)	<p>災害時に困ることをイメージする</p> <p>災害時は、普段通りには生活できないということ、また、その際身の回りにあるものが役に立つことを説明する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こると自分たちの生活がどうなるかについて子どもたちとやりとりする。 ・水道、電気、ガスなどが止まり、色々な困りごとが起こることを伝える。 ※震災時の写真を見せると理解しやすく、有効です。 ・それ用のグッズがあれば良いが、もしなかった時には身の回りのものを工夫して使って乗り切ることが大事だと伝える。
展開 (10分)	「アイテムカード」を配る。	
	<p>身の回りにあるものの活用法を考える</p> <p>クイズを通して、身の回りにあるものを災害時にどう活用すれば良いか考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを班に分け、各班にアイテムカードを配布する。 ・先生の手元に用意したもんだいシートを全員に見せ、もんだいの答えとして、最もふさわしいアイテムを各班で1つだけ選んでもらう(クイズによっては複数枚選ぶものもあります)。 ・選んだアイテムを班ごとに発表してもらう。 ・解説カードの内容を元に、点数の低いアイテムから答え合わせをする。
まとめ (2分)	「おうちのそなえチェックシート 防災グッズ」を配る。	
	<p>学んだことをおさらいする</p> <p>お家での備えをうながす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートを見ながら今日学んだことをおさらいする。 ・今日学んだもの以外にも、工夫すれば使えるものが家にたくさんあることを伝える。 ・「チェックシートを使って、お家にグッズがあるかどうか確認してみよう」と家庭でのチェックを促す。 ・チェックシートには、身の回りにあるもの以外のアイテムも含まれているが、家にこれらを揃えておくと、地震後の生活に役立つことを伝え、一緒に用意することをすすめる。 ・「足りないもの、準備していないものがあったら、お家の人と一緒に準備しましょう」と伝える。

【中・高学年向けの実施方法】

●使用する資料

もんだいシート(全4種類)



アイテムカード(全18種類)



答え合わせカード(全14種類)



●実施の流れ

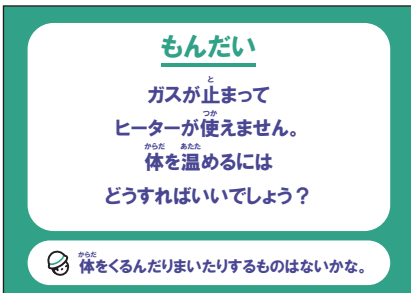
- ①各グループに全ての「アイテムカード(18種類)」を配布する。
- ②「もんだいシート」を使って出題する。
- ③もんだいの答えとして最も役立つようなアイテムを1枚(クイズによっては複数枚選べる場合もある)選んでもらう。
- ④アイテム名と選んだ理由を発表してもらう。
- ⑤解説カードを参考に、解説を加えながら点数が低い答えから説明していく。

何が起こるか分からない災害時に、100点満点の答えはありません。そのため、このクイズも90点を最高点としています。その場の状況下で、100点に近い最善の方法を見つけ出すという姿勢が大切です。

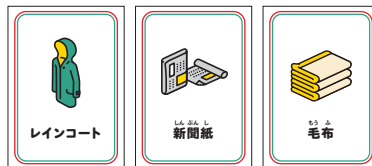
【低学年向けの実施方法】

●使用する資料

もんだいシート(全4種類)



アイテムカード(もんだいの答えに当てはまるものから3枚を選ぶ)



答え合わせカード(全14種類)



●実施の流れ

- ①事前にアイテムカードを選別しておく(各問題につき70点、80点、90点のアイテムを1枚ずつ選定)。
- ②各グループに選定した3枚のアイテムカードを配布する。
- ③「もんだいシート」を使って出題する。
- ④もんだいの答えとして有効度の高い順番に3枚のカードを並べ替えてもらう(ヒントとして、手に入れやすいもの、使いやすいものが高得点になる旨を伝える)。
- ⑤並べ替えた順番とその理由を発表してもらう。
- ⑥解説カードを参考に、解説を加えながら点数が低い答えから説明していく。